

## 益田市の文化財の紹介

### 第5回 もくぞう あみだ によらいりゆうぞう きょうさいじ 木造阿弥陀如来立像(教西寺)

【問い合わせ先】 市文化財課 ☎ 31-0623



(島根県立石見美術館提供)

名称	木造阿弥陀如来立像
読み	もくぞうあみだによらいりゆうぞう
指定	益田市指定文化財
種別	有形文化財（彫刻）
員数	1 軀
所在地	益田市高津一丁目 40-18
所有者	宗教法人 教西寺
年代	鎌倉時代（13 世紀中頃～後半）
像高	98.9cm
指定年月日	平成 31 年 4 月 1 日

益田市指定文化財・有形文化財（彫刻）の木造阿弥陀如来立像は、高津一丁目の教西寺に安置されている仏像です。教西寺は浄土真宗本願寺派の寺院です。本像は寄木造り※1で、内刳り※2が施されています。像高1m弱の阿弥陀如来であることから「三尺阿弥陀」と呼ばれるもので、理知的な面相とともに、仏師快慶の様式（安阿弥様）の特徴がよくあらわれており、その系譜に連なる仏師の制作と考えられます。着衣や衣紋※3が体軀に沿って自然に流れる表現がされ

ていることなどから、鎌倉時代、13世紀中頃から後半の制作と考えられています。

本像は、かつて教西寺の近隣に存在した、柿本神社の神宮寺※4（真福寺の本尊であり、真福寺が明治初年の神仏分離※5により廃絶したため、教西寺に移された）と伝わります。廃絶した真福寺、ひいては、柿本神社や高津の歴史を物語る貴重な遺品と言えます。

【参考文献】『祈りの仏像』島根県立石見美術館、2015年。

#### 【註】

- ※1 いくつかの木材をはぎ合わせて仏像を制作する方法。
- ※2 内部を刳り抜き、空洞にすること。木材が乾燥して割れるのを防ぐ。
- ※3 衣装類の皺やひだ。
- ※4 平安時代に日本古来の神への信仰と仏教信仰が融合した信仰形態である、神仏習合のもと、神社に付属して建てられた仏教寺院のこと。
- ※5 神仏習合を禁止し、神と仏、神社と寺院をはっきりと区別すること。明治初年の神仏分離により廃絶した寺院は少なくない。